

# カトリック河原町教会だより

## 2023年9・10月

教皇フランシスコ 2023年5月17日一般謁見演説 宣教への熱意・信者の使徒的情熱についての  
連続講話(抜粋) 13. 聖フランシスコ・ザビエルのあかし

親愛なる兄弟姉妹の皆さん、おはようございます。使徒的熱意の模範となる例を交えて、この講話を進めましょう——今日は、その一例として、聖フランシスコ・ザビエルを取り上げます。聖フランシスコ・ザビエルは、1506年にスペイン北部のナバラ地方で、高貴けれども貧しい家に生まれました。そしてパリに留学しました——ザビエルは社会的で知的な、素晴らしい若者でした。そのパリで、彼はイグナチオ・デ・ロヨラに出会います。ロヨラはザビエルに靈操を教え、その人生を変えました。ザビエルは、福音宣教者になるために、世俗の職業を捨てたのです。イエズス会へ入り、誓願を立て、そして司祭になり、東へ派遣され、福音宣教のために出向いていきました。フランシスコ・ザビエルは、イエス・キリストと福音を伝えたいという強い思いに動かされ、旅立ち、多くの困難と危険を耐えるころの準備をし、陸にたどり着き、完全に未知の文化と言語をもつ人々に出会いに行った現代の数多くいる情熱的な福音宣教者の最初の人物です。ほんの11年と少しの間に、ザビエルは途方もない偉業を成し遂げました。船旅はとても過酷で、当時はとても危険な旅でした。船旅の途中で、難破や病気によって、多くの人が亡くなりました。ザビエルは、当時のポルトガル領インドの首都であったゴア州に到着しました。ゴア州は文化と商業の中心地で、ザビエルはそこにベースを築きましたが、そこにとどまることはしませんでした。インドの南海岸の貧しい漁師たちに宣教をしに行き、子どもたちにカテキズムや祈りを教え、洗礼を授け、病者の世話をしました。インドである日、ザビエルは日本から来た人と出会いました。その人はザビエルに、今までヨーロッパの宣教者が行こうとさえしなかった、自分の遠い祖国の話をしていました。ザビエルは、宣教へ出向いていく使徒として、いてもたってもいられず、すぐに日本へ向けて出発することを決意しました。中国人の所有する帆船での向こう見ずな船旅の後、ザビエルは日本に到着しました。日本での3年間は、日本の気候、弾圧、日本語を話せないことから、とても困難な月日でした。けれども、そこで植えられた種は、豊かに実をつけたのでした。どこへ行っても、彼は病気の人や貧しくされた人、子どもたちの世話を大切に行いました。今、何かをしたいと感じ、それでも何をしたらよいか分からないと感じている多くの若者たちに、こう言いたいと思います。とても困っている人、多くの苦しんでいる人、イエスを必要としている多くの人にまなざしを向けてください。そして、出向いていく勇気を持ちましょう。





## 一期一会の出会いの場で

洛東ブロック担当司祭 菅原友明

私たちは日々たくさんの人と出会いながら生きていきます。そのひとつひとつの出会いの重要さを、聖書はさまざまな言葉で語ります。たとえばこんな言葉があります。「目に見える兄弟を愛さない者は、目に見えない神を愛することができません」(Iヨハネ 4:20)。

確かに私たちの目に神様は見えません。見えるのは、目の前に現れる人々のほうです。だからこそ他者との出会いの場には、やはり決定的な意味合いがあるのでしょうか。忙しかったり、面倒だったりして、どうしても表面をさすようなその場しのぎの出会い方しかできていないのが私たちですが、それでも、他者との出会いの場において輝き出している神の現存を見過ごさないように心がけたいものです。

「互いに相手を自分よりも優れた者と考えなさい」(フィリピ 2:4) というパウロの言葉も、他者と出会っているときにはいつも思い起こしたい聖句です。相手を尊敬し、ひたすら相手の言葉に耳を傾けることは、自分をゼロにしていき、そこには自分も相手も超えた方の臨在があります。他者に耳を傾けるといふ行為は、私たちが想像する以上にスピリチュアルな事柄にちがひありません。シュタイナーは、相手の言葉に没批判的に耳を傾ける実践を、自分を捨ててエゴイズムから脱却するための霊的修行であるとさえ言っています(※1)。ブーバーも、瞑想的な恍惚状態ではなく、ありふれた日常的な他者との出会いと対話にこそ真正な宗教性の本質があることを強調しています(※2)。

イエスは「自分を捨て自分の十字架を背負って私に従いなさい」(マルコ 8:34) と命じ、「自分の命を救いたいと思う者は、それを失うが、わたしのために命を失う者は、それを得る」(マタイ 16:25) と語ります。自分を捨てることが本当の命を生きることにつながるといふ宗教的真実が語られているのですが、相手を自分よりも優れた者だと考えて、感謝と謙遜のうちに相手に耳を傾ける姿勢には、この真実に通じるものがあるでしょう。傾聴とは自分を捨て自分に死ぬことにほかならないからです。

「右から来たものを左に受け流す」ようにしか他者と出会えていない私ですが、日々のなにげない出会いの場こそが、神の臨在の驚くべき最前線であることを少しでも意識できたらと思います。どんなにありふれたことに思えても、人との出会いは、神様の深遠なご計画の賜物です。他者との出会いは、いつでも、驚きと真実と祝福に満ちた、奇跡的とも言える恵みなのでしょう。

※1 ルドルフ・シュタイナー『いかにして超感覚的世界の認識を獲得するか』(高橋巖訳、ちくま学芸文庫、2001年) 63~64頁参照

※2 マルティン・ブーバー『我と汝・対話』(植田重雄訳、岩波文庫、1979年) 195~196頁参照





## 2023年ワールドユースデーリスボン大会参加感想文

WYD2023 へ参加して

私は英語をほとんど話せません。それが WYD 参加を躊躇した最大の理由でした。海外の青年達との交流できるのだろうか、不安を抱きながらポルトガルへ向かいました。そんな気持ちで訪れたポルトガルは素晴らしい国でした。到着日にコインブラ教区主催のカテケージスに参加しました。結婚間近の青年二人が進行役でテーマは『付き合うことと結婚』でした。彼らは馴れ初めや付き合いを重ね結婚に至るまでの思いを分かち合ってくれました。幸せそうな声や表情からは確かな愛を感じ、英語での進行のため部分的にしか聞き取れない自分にも幸せが伝わってきました。終了後に感謝を伝えると「ありがとう」と言われました。その時、不思議なことに私から不安が消えました。翌日からのアクティビティでも安心感を持って青年達と会話を重ね、時には翻訳アプリも使いましたが、同じ信仰を持つ青年と分かち合うことができ、ここでは語り切れないほど素晴らしい日々を過ごせました。今後 WYD への参加を語学力の問題で迷う青年がいるなら絶対に参加を進めます。私は言葉が完全には通じなくとも分かち合うことはできると信じます。また、今大会の参加にあたり、負担を軽減し参加を後押ししてくれた教会の皆さんへ感謝いたします。ありがとうございました。

河原町教会所属 平野慶孝



コインブラの街並み

初めての WYD

ポルトガルに着き、ホームステイをしながら7月26日から31日までコインブラと言う町で過ごしました。自分のグループでは自分より若いメンバーが多く、信仰にしっかり向き合えていない人が多かったのですが、WYDに参加して信仰とは何なのかと考えながら祈りを通して毎日過ごして居ました。コインブラの街並みはジブリの世界観で昔ながらの建物が多く、地面は主に石畳で歩きにくい町でしたが、凄く可愛い街並みでした。ホームステイ先で言語がほぼ通じず、自分は言語の壁を大きく感じました。英語も全く話せず勉強すれば良かったと何度も後悔しましたが、ジェスチャーや言語翻訳のアプリを使って会話をしました。とても親切に接してくれました。日本からのプレゼントは御箸にしました。とても喜んで頂けて嬉しかったです。コインブラの初日に街並みを歩き、カフェに行き、友達を作り、ビールを飲み、最高の初日を迎えました。環境の変化が日本と全く違って、日中はとても暑く夜が涼しく朝が極寒でした。コインブラでは7月28日に午前中街歩きをし、午後アクティビティでライスプディングの作り方を教えてもらいました。29日はコインブラでのユースフェスティバルがあり、教会から街中を歩き、色々な各国の国の人達と交流をしながら会場へ行き、ミサを授かりましたが、体調不良で国際交流が全くできませんでした。30日はお昼前にミサを授かり、お昼から夕方までホストファミリーと共に一日を過ごして、夕方日本巡礼団と合流して、フェスティバルではソーラン節を披露しました。各国の出し物を見て楽しい一日を過ごしました。31日朝にコインブラを出て、ファティマに着き、祭壇ではミサが行われてました。想像を遥かに超える大きさに1番心に残った一日でした。その後、リスボンの学校の体育館で泊まりました。8月1日は開会ミサが行われるエドゥアルド7世公園へ行き、国際交流をして、ミサを授かりました。最前列から6列目ぐらいにグループで居ました。

2日はカテケージスで、東京管区がライズアップをしました。自然環境について分かち合いをしました。その後ミサを授かり帰りました。3日目大阪管区がライズアップをして、テーマは3つに別れてましたが、自分達の班は政治と関わる中について分かち合いをしました。その後、司教様の話を聞き、ミサを授かりました。貴重な体験をありがとうございました。行けた事に感謝し、無事帰って来られた事にも感謝します。支援金があったり、後押しをしてくれた家族に感謝します。

良い事も悪い事も乗り越えてこれからも巡礼を続けて行きます。ありがとうございました。河原町教会所属 平野慶明



聖母ファティマ聖堂

敬老感謝  
ミサ  
の様子  
⇒





2023年10月～12月までの主な予定◇(予定は変更になる場合があります)◇

月	日	曜日	行事予定
10	1	日	[年間第26主日] 10:00 ロザリオの祈り
	8	日	[年間第27主日] 10:00 ロザリオの祈り
	15	日	[年間第28主日] 10:00 ロザリオの祈り
	22	日	[年間第29主日] 10:00 ロザリオの祈り 世界宣教の日(献金)
	29	日	[年間第30主日] 10:00 ロザリオの祈り
11	1	水	諸聖人
	2	木	死者の日 諸死者追悼ミサ 18:30
	5	日	[年間第31主日]
	12	日	[年間第32主日] 七五三お祝い 10:30 ミサ中
	19	日	[年間第33主日] 貧しい人のための世界祈願日 聖書週間(～26日)
	26	日	王であるキリスト(年間第34週) 世界青年の日
12	2	土	司教座聖堂献堂記念ミサ 10:30
	3	日	[待降節第1主日](B年) 聖フランシスコ・ザビエルの祝日 京都教区司教座教会献堂記念日 宣教地召命促進の日(献金)
	8	金	無原罪の聖マリア
	10	日	[待降節第2主日] 菅原神父霊名<アンノ 12/5>のお祝い 10:30 ミサ中
	17	日	[待降節第3主日]
	24	日	[待降節第4主日] 主の降誕(夜半)ミサ 13:00(英語)・18:30・21:00
	25	月	主の降誕(日中)ミサ 7:00・10:30
	30	土	ナン神父霊名<ステファノ 12/26>のお祝 18:30 ミサ
	31	日	聖家族 瀧野神父霊名<ステファノ 12/26>のお祝 7:00 ミサ



## 平和旬間行事 8/5・6 戦争と平和写真展の様子



## 主日ミサ(集会祭儀)の時間

土曜日 18:30

日曜日 7:00、10:30、  
12:00(英語・第2第4のみ)

## 週日ミサの時間

水曜日 9:30

金曜日 10:30

最新の情報はウェブサイト参照

## 講座の時間(休講の日も有り)

## これから洗礼を受けられる方向け

## 洗礼準備講座

土曜日 11:00(菅原神父)

## 一般向け

## キリスト教入門講座

金曜日 19:00(瀧野神父)

「キリスト教とは何か」

## キリスト教入門講座

土曜日 16:00

(Sr.テッシーのチーム)

「こころにひかりを」

## 養成講座(信徒・一般向け)

## 読書会

「イエス・キリストの言葉」読書会

水曜日 10:00(瀧野神父)

## 要理通読会

「カトリック教会のカテキズム  
要約」の通読

木曜日 11:30(菅原神父)

## 聖書の集い

金曜日 11:00(Sr.テッシー)

## 聖体顕示式

第3土曜日 15:15(菅原神父)

## 「ガラテヤ書」を読む

第1土曜日 19:20(菅原神父)

## 「マルコ福音書」を読む

第2日曜日 11:40(菅原神父)

「これから洗礼を受けられる方  
向け」は事務室かrakuto.nyumon.class@gmail.com  
まで事前にご相談ください。

カトリック河原町教会だより 2023.9・10 カトリック河原町教会広報部発行

〒604-8006 京都市中京区河原町三条上る下丸屋町423 発行責任者:洛東ブロック司牧チーム

TEL:075-231-4785 FAX:075-211-8021 URL:<http://CatholicKawaramachi.Kyoto>